

留学報告書

～ちっぽけな自分が偉大に思えたとき～

コー大学

外国語学部 （長期）

「あなたは今回の留学生の中で一番学校の行事に貢献してくれた。ありがとう。」とコー大学の留学生アドバイザーであるジョンが私に言ってくれた言葉です。小学校6年生の時に英語を習い始めてから、海外留学はずっと私の夢の一つでした。名古屋学院大学に進学することを決意した時も留学のプログラムに惹かれて、勉強を頑張り絶対に留学をしようと決意しました。

大学3年生の夏、8月14日に家族や友達、見慣れた日本にさようならして、アメリカアイオワ州のコー大学へ飛び立ちました。

コー大学は、私が志望した大学の一つでした。大学2年生で留学した友達が多く、たくさん話も聞いていましたが、なぜかコー大学へ行った友達の話がとても魅力的に感じ、コー大学に行きたいと思いました。アイオワ州は思っていたよりも田舎ですが、私はこの選択肢に1ミリも後悔していません。コー大学で過ごした10か月間は、私の人生の中で一番充実し、楽しかった10か月間でした。

まず、新しい経験がたくさんできたことが、その理由の1つです。寮では、広い4人部屋で日本人、韓国人、ネパール人の女の子たちと共に生活しました。出会ってから1週間しかたっていないのに、”Happy Birthday!” とケーキをプレゼントしてくれるようなルームメイトに恵まれました。他人と住む、しかも他国出身で文化や生活習慣が異なる人たちと住むのは難しくぶつかり合うこともあったが、多文化の意味を実感しました。相手を知り、受け入れることが多文化であり、この経験ができたことに感謝しています。

1学期が終わると、3人のルームメイトがコー大学を離れ、人生初の一人暮らしも経験しました。恥ずかしながら料理も、洗濯もろくにすることがなかった私にとっては多くのチャレンジがありましたが、最終的には広い部屋をうまく管理できるようになりました。

授業では、名古屋学院大学では受けられないような科目を多く学びました。陶芸とドローイング、美術の授業、パソコンの授業、中国の歴史の授業、ストレスマネジメントの授業、そしてESLの授業などを受けました。陶芸、ドローイングの授業では、自分の手を汚して作品を作ることがとても楽しかったです。私はもともと絵を描くこととアートが大好きです。

陶芸は、やったことがなく、難しくて、課題も多かったので大変でしたが、作品ができるごとに達成感を味わうことができました。ドローイングの授業では、裸のスケッチをしました。アジア系の生徒たちはびっくりしていましたが、アメリカ人は平然としていました。今後あまり経験ができないことだなと感じました。そして、ストレスマネジメントは、日本でも世界中の大学にあってほしい授業です。ストレスを解消するための呼吸法や落ち着く匂いなどを教えてくれて、日本でもストレスで取り返しのつかないことをしてしまう人が山ほどいるのに、未だにこのような授業をやらないのは、もったいないと思います。

コー大学の行事では、夢見ていたイベントにたくさん参加することができました。一番楽しみにしていたホームカミングでは、ドレスアップして友達と参加しました。入り口にフォトブースがあり、会場内には食べ物や DJ、大きなダンスフロアがありました。みんなが恥ずかしがらずに楽しく夜中の 2 時まで踊っている姿を見て、誰の目も気にせずに楽しむ姿はこんなに素敵なのかと思いました。それを機に、誰の目も気にせずやってみたいことをやってみようと思いました。その後、インターナショナルクラブの 2 つの大きなイベントに参加することを決めました。

1 つ目は、10 月のカルチャーショーで友達と K-pop を踊り、一人でブラジルの伝統ダンスサンバとファンクを披露しました。K-pop の出し物は、グループ内のぶつかり合いもありましたが 2 か月間の練習を経て無事に楽しく踊ることができました。サンバは自分 1 人で曲の編集も振りもやったので、これでいいのかと思うこともたくさんありましたが、当日観客の歓声や友達の応援を受けて、気持ちよく楽しく踊ることができました。私は、元々ダンスをすることが大好きで、高校の時にダンス部に所属していました。久しぶりに舞台に立てて、大学に入ってから忘れていたわくわくとドキドキを思い出しました。やはり私はダンスが好きだと再確認できた瞬間でした。

2 つ目のイベントは、インターナショナル・バンケットです。地域の方や大学の生徒に留学生たちが自分たちの国の伝統料理を作って振る舞うイベントです。私はブラジルの伝統料理パステル（揚げ餃子のような軽食）とブリガデーロ（トリュフのようなチョコレートのデザート）を作りました。友達と協力してトラブルなく完成させ、地域の方々とブラジルについて会話をしながら料理を提供しました。喜ばれる姿に心が温くなりました。

留学を特別な経験にしてくれた最後の理由は友達です。とてもシャイな私は友達を作るのに時間がかかります。アメリカというオープンな国で、内気な自分が仲良くしてもらえるのか心配でした。しかし、インターナショナルクラブでたくさんの友達を作り、ラテン系の友達と毎日のように一緒に過ごしました。他にもスペイン人や韓国人など、様々な国籍の友達と仲良くなり、今では世界中に友達がいます。

このように長いようで短かった 10 か月間で一生忘れない思い出がたくさんできました。そして、この 10 か月間で、コー大学に自分の存在と爪痕を残せたと思います。多くの人と出会い、イベントに参加し、旅行し、素敵な人と出会うことができ、留学生の中で一番楽しんだ自信があります。「あなたは今回きた留学生の中で一番学校の行事で貢献してくれた。ありがとう。」と感謝されたとき、まだちっぽけな自分が一瞬偉大に思えました。何かに挑戦することはとても素敵なことで、頑張りを見てくれる人はたくさんいます。留学ができたことを心の底から嬉しく思います。これから留学に行く皆さんも、多くの経験をして、素敵な思い出を作ってください。